

## ボランティア活動時の感染症予防のために

### <子どもの居場所／学習支援>

新型コロナウイルス感染症影響下での被災という非常事態においても、できる限り子どもたちの日課や習慣を保ち、安心して遊んだり、学んだり、休んだり、家族やお友達と過ごせる機会や場所をつくることはとても大切なことです。そして、ストレスを抱えた子どものケアをする親御さんや養育者を支えることも大切です。

リスク分類	ボランティアと地域住民の接触	地元住民同士の接触	ボランティア同士の接触	ハイリスク者の関与	リスク評価
子どもの居場所/学習支援	高	高	中	低	高

### <子どもの新型コロナウイルス感染リスクと対策の概要>

#### ○ 感染のリスク

- オミクロン株の登場以降、子どもでの感染事例も増えていきます。多くは軽症ですが特に基礎疾患のある子どもや乳児では重症化することがあります。
- 子ども同士の感染より家庭内やでの大人からの感染が多いと言われているので大人からの感染リスク低減が重要です。子ども自身に加えてご両親や同居家族、登園/通学している保育園や幼稚園、学校の感染状況も確認しておくことでリスクを正確に把握できます。

#### ○ 感染予防対策について

- WHO では「5 歳以下のマスクは不要」、厚生労働省では「2 歳未満のマスク着用を推奨しない」としています。
- マスク着用ができる子は着用してもらい、無理な子は着用を強制する必要はありません。
- 子どもができる範囲内の感染予防策をとることが重要です。幼児等の場合は教育の一環として、「手が汚れたら手を洗おうね」という程度の指導でもよ

いでしょう。

## <活動に入る前>

### ○ 被災地内の感染状況に細心の注意を払う

- 個人の感染対策をどれだけ努力しても感染リスクをゼロにする事はできません。被災者の安心を損なわないよう、最新の感染状況や地域の災害ボランティアセンターが出している「ボランティア受援方針」を参考にして、慎重に開催/中止の判断をしましょう。

### ○ 健康状態を確認する

- 自分の健康状態を毎日確認しましょう。
- 可能な場合は、参加者にも事前に健康状態をセルフチェックしてもらうよう伝えましょう。体調の不安を訴えた場合は必要に応じて医療機関を受診するよう促しましょう。

#### (参考) 新型コロナウイルス感染症の主な症状

- ・ 37.5 度以上の発熱
- ・ 息苦しさ
- ・ 強い倦怠感
- ・ 継続的な咳
- ・ 継続的なのどの痛み
- ・ 味覚/臭覚の異常
- ・ 下痢 など

※新型コロナウイルス感染症以外に、ノロウイルスなど他の感染症の疑いがある場合も活動を休みましょう

- ・ 下痢
- ・ 日頃と異なる体調不良など

### ○ オンラインでの開催や併用も検討する

- 参加者も含めた完全なオンライン開催や、支援者の一部（講師など）をオンラインにする事が可能か、検討しましょう。

### ○ 抗原定性検査の実施も検討する

- 被災地内の医療機関が切迫している、重症化リスクの高い方が多く参加する等の場合は、当日に抗原定性検査を行って感染リスクを下げることも検討しましょう。

### ○ 会場の確認と感染対策の事前準備

- 開催場所を事前に確認し、会場の感染予防対策ガイドラインがあれば確認するとともに、参加者が間合いを確保できるか、屋内の場合は換気が充分にできるかを確認しましょう。可能なら入口と出口を分けましょう。
- 事前に消毒しておくべき場所や物を確認しましょう。
  - ・机 ・イス ・ドアノブ ・手すり ・エレベーター ・トイレ
  - ・手洗い場(蛇口) ・電灯のスイッチ ・マイク 等
- テレビのリモコンや会場に常備の備品等のうち、子どもの居場所や学習会場では使わない物は事前に撤去しておく事でリスクを下げる事ができます。

#### ○ 準備物を確認する

- 活動の必携品
  - ・受付名簿 ・筆記具 ・チラシ等配付資料 ・遊具や本など使用する物品
- 感染予防対策品
  - ・不織布マスク ・アルコール手指消毒液 ・アルコールウェットティッシュ
  - ・非接触型検温器 ・ゴミ袋 ・ゴミ箱(ふた付) ・手袋・ペーパータオル
  - ・家庭用洗剤

### <活動中>

#### ○ 会場の準備

- 参加者が触る場所は事前に消毒しましょう。清掃時はマスクと手袋をして、終わったら破棄しましょう。

(参考資料) 経済産業省>ご家庭にある洗剤を使って身近な物の消毒をしましょう」

<https://www.meti.go.jp/press/2020/06/20200626013/20200626013-3.pdf>

- 座席の間隔は2m以上(最低でも1m)あけて座るよう準備しましょう。
  - ・グループの場合、対面にならない様に席を設置しましょう。
- 受付の前にアルコール手指消毒と検温できる場所を設置しましょう。
- 受付は密集しやすいので広いスペースがとれる場所に設置しましょう。

- 換気を確保しましょう。(常時換気がベスト。少なくとも30分毎に5分換気)
- 動線を確保して不用意な密が生じないようにしましょう。
- 配付物などは事前に席に置いておくことで接触機会を減らす事ができます。
- 感染予防対策を促すチラシなどを会場内に掲示しましょう。
- 特に夏期の場合、マスクにより熱中症のリスクが高くなるので、マスクを外して休憩できるような換気の良い休憩場所を確保しましょう。

#### ○ プログラムの工夫

- 紙芝居や読み聞かせなど、できるだけ子ども達が大声を出さずお互いの接触が少ない過ごし方を工夫しましょう。
- おもちゃや遊具の共用はできるだけ避け、子どもが手放した頃合いを見計らって、できるだけ頻回アルコールウェットティッシュで拭きとりましょう。
- 鼻水やよだれなどを拭いたティッシュ等はビニール袋に入れて破棄しましょう。ゴミ箱はふた付を用意しましょう。
- 飲食は避けましょう。どうしても飲食を伴う場合は個包装された物を使い、食べる際におしゃべりしない様に工夫をしましょう。(映画鑑賞中に配る 等)
- 個別にペットボトル飲料を用意したり専用の紙コップを用意し、こまめに水分を補給してもらいましょう。
- 保護者同士が会話をする場合は席の距離を2m(最低でも1m)離せるよう工夫しましょう。
- 受付時や終了時、休憩時、室内外の移動など、参加者の移動が伴うときに密になりやすいので順番に移動を促すなど工夫しましょう。
- できるだけ事前申込制にしましょう。参加人数が多い場合は時間を分けるなど工夫しましょう。当日受付の場合は、会場の参加人数に応じて入場を調整できるよう、待機場所や入場前の案内なども検討しましょう。
- 安全が確保できる屋外が準備できるなら、積極的に活用しましょう。
- 特に屋外を使う場合は、安全を見守るスタッフは適切に配置しましょう。

- 筆記具等はできるだけ持参してもらい、無い人については持ち帰ってもらえる様に予備を準備しましょう。
- 学習指導等で会話する際は大人は必ずマスクを付けましょう。

#### ○ 受付での対応

- 非接触式検温器で検温すると共に、体調の異変がないか確認しましょう。  
発熱が認められる場合、体調に異常を訴える場合は参加を見合わせ、必要に応じて医療機関を受診するよう促しましょう。
- マスクの着用をお願いし、無い方は配付しましょう。  
※保護者でも、何らかの理由でマスクを付ける事ができない方もいます。事情を丁寧に伺った上で、事業の趣旨に沿って対応しましょう。  
・別室で対応する ・咳エチケット用のハンカチなどを用意してもらおう 等  
(子どもは着用可能な人のみ着用してもらいましょう)
- 金銭の受け渡しが必要な場合、直接の手渡しは避け、トレイなどを利用しましょう。受付スタッフがお金に触れた場合はアルコール手指消毒をしてから次の方の対応をしましょう。
- 名簿はチェック式にするなどスタッフ側で対応できるように工夫しましょう。参加者に記入してもらおう場合は、書く前のアルコール手指消毒、書いた後のアルコール手指消毒を促しましょう。

#### <活動後>

##### ○ 会場の消毒・清掃

- 使い終わった会場は消毒、清掃してから返却しましょう。
- 製造時はマスクと手袋をして、終わったら破棄しましょう。
- 活動で出たごみをいれたゴミ袋は口を閉じて持ち帰り、地元の分別ルールに沿って処分しましょう。